

平成24年度 教育モニターからの質問とその回答 9月分

月	住所	性	歳	質問および回答
9	可児市	女	40	<p>経験年数の浅い先生が、授業でわからないので困っている子に対して感情的になってしまい、子どもが先生の態度にびっくりした。ということがあったと聞いた。子どもに教えることや叱ったりすることについて、経験年数が浅い先生に対して、どのような研修が行われているのだろうか。</p> <p>岐阜県教育委員会では、新規に採用した教員を、6年間で小学校と中学校のどちらでも指導ができる、幅広い年齢の児童(生徒)に対応できる資質を備えた教員に育てることをめざして、様々な研修を実施しています。その中で、必修としている研修が、初任者研修・3年目研修・6年目研修の3つです。その研修の中では、「子どもを理解すること」についての研修を取り入れています。この「子どもを理解すること」については、新規採用時の初任者研修において「子ども一人一人のよさや可能性を認め、ほめたり励ましたりすること」ができるように研修を行っています。さらに、勤務している学校の中でも、「児童(生徒)のほめ方、叱り方」などの内容で随時研修を行い、学校の職員全員で経験年数の浅い教員を育てるようにしています。</p> <p>また、教え方については、1時間の授業の始まりから終わりまでの流れ、子どもの発言の受け止め方、子どもの評価の仕方など多くのことを研修内容に盛り込み、「授業の指導力」を身に付けることができるようにしています。このように「子どもを教えること」については、校長等の管理職やベテラン教員から学んだり、年齢の近い教師が集まって互いに教え合ったりして、悩みを解決し合ったりしています。</p> <p>若い教員もベテランの教員も、一人一人の子どもたち・保護者にとって同じ「先生」です。一人一人の子どもたちの心の声を受け止め、誰もが安心して通える学校であるとともに、全ての子が「わかる」「できる」喜びを味わうことができる授業ができるよう、若い教員が確かに育つ研修を、今後も充実していきます。</p> <p style="text-align: right;">【教育研修課】</p>